

「働く者のための働き方改革」に向けて前進しよう。

今年のメーデーの直前、私のふるさとである中津市耶馬溪町で大規模な土砂災害が発災し、尊い人命が奪われました。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

東日本大震災から7年、熊本を中心とした九州地震から2年が経過しました。そして、昨年の九州北部豪雨、台風18号による被害から1年を迎えようとしています。私たちは、「自然の脅威の前に成す術はないのか」と自問自答を繰り返す中、それでも、目の前の現実真剣に向き合い、自分たちができることは何かと問い、「ボランティア活動」を組織的に取り組んできました。

だからこそ、そんな私たちだからこそ、多くの尊い命の犠牲の上に得た教訓を日常生活の糧にし、未来への伝言にし、災害を風化させず、被災者に寄り添い、地域コミュニティーの一員として防災・減災の取り組みを進めていく使命を担っていることを、まずもって確認し合いたいと思います。

さて、今年のメーデーのスローガンは「平和・人権を守り、あらゆる差別をなくそう！働く者のための働き方改革をすすめ、すべての仲間と結集しよう！」でした。

20世紀は、数多くの戦争や地域紛争、民族や宗教対立などによって、世界で数千万人の尊い命が犠牲となったことから、「戦争の世紀」と呼ばれました。これに対して、21世紀は「人権の世紀」と言われています。

この言葉には、20世紀までの経験を踏まえて、全ての人の人権が尊重され、幸福が実現する時代にしたいという全世界の人々の願いが込められているからです。部落解放の父、松本治一郎先生は、「戦争は最大の人権侵害である」という言葉を通して、われわれに「人権の尊さ」を問いかけ続けています。

私たちは、21世紀を「人権の世紀」にするために、世界人権宣言に示す「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、人間として尊重され、平等に基本的権利の享有が保障されなければならない。このことは人類社会に共通する、自由と正義と平和の礎である。」このことを肝に銘じて、学習・行動をしていかなければなりません。

今、国会や霞が関において「忬度だ」「隠ぺいだ」「改ざんだ」そしてあげくの果てには「セクハラだ」ということが耳目を集めています。

このような国民や国民生活に目を向けないことによる混乱を見るにつけ、日本の政治の中心的なポジションにいる方々の発する言葉の軽さ、説得力のなさを痛感します。

そして、この方々の言葉や会話には、相手を思いやる気持ちや人の思いを理解しようとする姿勢については、感じ取ることができませんし、「惻隱の情」なるものは、全くないと言っていいと思います。

この人権感覚の希薄さと国民の知る権利をないがしろにする国会運営や国会答弁が、「日本の民主主義の危機」と言われる最大の原因と捉えています。

一方、労働組合は、「民主主義の学校」と言われます。それは、「労働組合の民主主義は、自分たちの力で築き上げ、自分たちで運用し、自分たちみんなの生活をどれだけ向上させていけるか」という体験を積み重ねることによって、はじめて「民主主義が自分たちのものになる」ということを追求してきた歴史をそれぞれの組織が持っているからです。

今、「民主主義の危機」が叫ばれる中、連合大分として「民主主義とは何か」ということを強く発信し、「労働運動と労働者福祉運動は、社会を変える力を持っている」ことに確信をもって、取り組みを進めていきたいと思います。

大分県は、昨年8月17日に政労使で『『おおいた働き方改革』共同宣言』を採択しました。私たちは、この宣言を「絵にかいた餅」にすることなく、魂を入れ込まなければなりません。そのためには、「働き方のインフラの整備」が重要となります。

その中でも、とりわけ

- ①「働く側の意思」が尊重されること。
- ②「セーフティーネットが強化」されること。
- ③「均等待遇」が実現すること。
- ④「働く者の人権」が確立されること。

が重要となります。

お父さんを過労死で喪った小学校1年生が、こんな詩を書いています。

大きくなったら　　ぼくは博士になりたい
そして　ドラえもんに出てくるような
タイムマシーンをつくる
ぼくはタイムマシーンに乗って
お父さんの死んでしまう　　前の日に行く
そして「仕事に行ったらあかん」ていうんや

6歳の子どもにこんな詩を書かせる社会は、間違っています。私たちは、誰もが希望を持って、仕事と生活を両立できる社会に向けて、それぞれの労使が、「あるべき経営」、「あるべき働き方」を追求し、社会全体で「労働時間を最適化」していくことに全力を投入していかなければなりません。

そして、すべての仲間・働く者の連帯で「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて、「新たな発想」「かみ合ったタテとヨコ」「連合大分総がかり」を合言葉に、力を合せて邁進していくことを誓い合いたいと思います。

ともにがんばりましょう！

以　上